

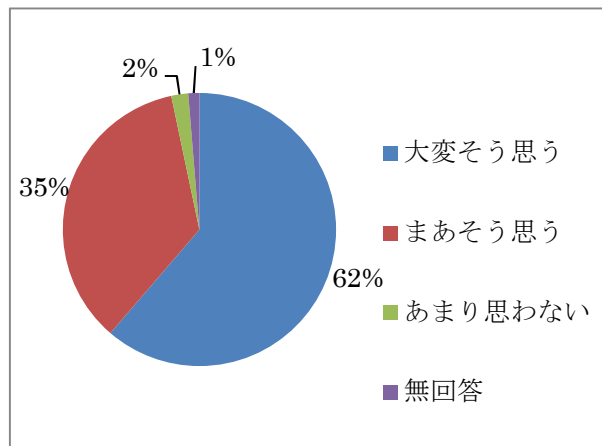
外部人材を活用した小・中学校等へのアンケート結果と考察

●実施対象 小・中・高等学校等74校の教職員150人

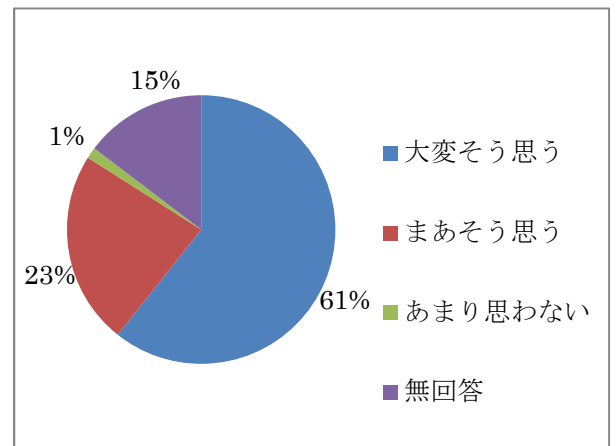
●実施期間 平成27年4月～12月

●結果

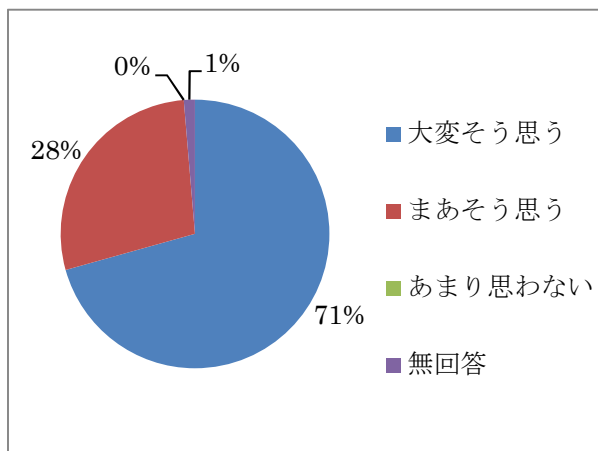
1 外部人材の活用の効果があった



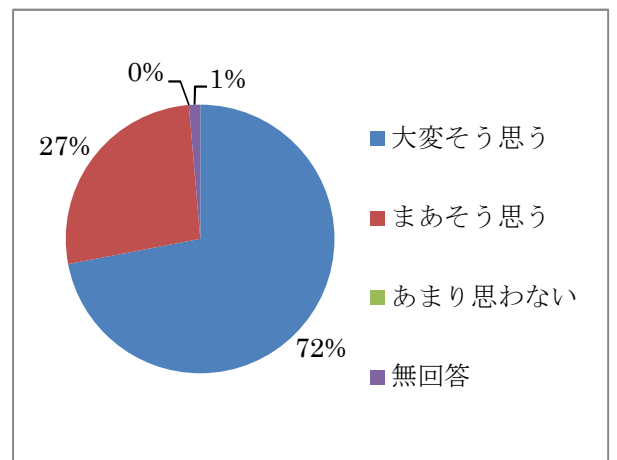
2 外部人材の話は理解しやすい



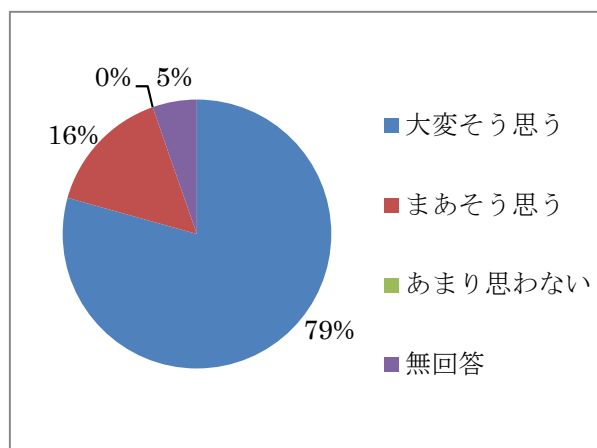
3 外部人材の助言を指導に生かそうと思う



4 外部人材を今後も活用したい



5 外部人材の助言は教職員にとって有効である



●考察

どの項目も「大変そう思う」という回答が60%を超えており、教職員にとって有効であるかどうかについては、80%近くが回答している。

このように強い肯定的な評価が高かった要因として、各実践校では以下のように捉えている。

- ・小中学校等の普段の研修では聞くことが少ない専門性について、新しい視点から外部人材の助言を聞くことができた。
- ・教室の環境作り、教材作り、児童生徒への対応の仕方等、具体的な内容を聞くことができた。
- ・外部人材の体験談を交えた内容がわかり易かった。
- ・合理的配慮等の最新の情報を聞くことができた。
- ・体験や実技を含んだ基礎的な内容がわかり易かった。
- ・心理検査の結果を具体的な見立てや支援に結び付けることができた。
- ・問題行動の奥にある背景を考え、児童生徒の実態把握の方法を知ることができた。

以上のようなことから、今後、外部人材と協働していくには、外部人材の専門的な視点をより具体的、実践的な内容につなげていくように特別支援学校のセンター的機能を発揮していくことが重要であると思われる。

学校名	県立市川特別支援学校
-----	------------

平成27年度

1 小・中学校等へのアンケート

活用した外部人材	心理士1名					調査実施学校数 3校
	言語聴覚士1名					調査実施人数 9人
質問項目		大変そう思う	まあまあそう思う	あまり思わない	思わない	無回答
外部人材の活用の効果があった		6	1			
外部人材の方の話は理解しやすかった		6	1			
外部人材の方のアドバイスを指導生かしてみようと思う		6	1			
機会があったら今後も外部人材を活用してみようと思う		6	1			
教職員にとっても外部人材の助言は指導上、有効であると思う		7				

2 小・中学校等の教職員が外部人材の助言で、有効だと思った具体的な内容

<p>(心理職)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者への説明や接し方 ・児童生徒の特性の理解 ・具体的な教材教具の提案 ・ソーシャルスキル向上のための指導 ・姿勢や視野に関する配慮 ・分かりやすい課題の提示方法 ・WISCIVの実施と解釈 <p>(言語聴覚士)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構音指導の方法 ・姿勢の崩れを防ぐ方法 ・偏食指導についての考え方
--

3 考察

<p>心理職では、認知面のアセスメントや分かりやすい教材教具の工夫など、心理学の知見を生かした提案が有効だったという記述が多く見られた。言語聴覚士においても、構音指導や摂食指導の方法の提案等、職種の専門性を生かした提案が有効だったという記述が見られた。心理職、言語聴覚士ともに、専門性を発揮して助言を行うことができていた。外部人材を活用することで、より専門性の高い提案を行うことができたものと思われる。</p>

学校名	千葉県立千葉聾学校
-----	-----------

1 小・中学校等へのアンケート

平成27年度

活用した外部人材	大学の教授 2名					48校
	教諭 1名					48名
質問項目		大変そう思う	まあまあそう思う	あまり思わない	思わない	無回答
外部人材の活用の効果があった		25	21	2	0	0
外部人材の方の話は理解しやすかった		20	26	2	0	0
外部人材の方のアドバイスを指導生かしてみようと思う		31	17	0	0	0
機会があったら今後も外部人材を活用してみようと思う		34	14	0	0	0
教職員にとっても外部人材の助言は指導上、有効であると思う		37	11	0	0	0

2 小・中学校等の教職員が外部人材の助言で、有効だと思った具体的な内容

わかりにくい聴覚障害児の考え方がイメージしやすくわかりやすい話だったこと。勘違いの仕方や聞き間違いやすい場面のエピソード。聴覚障害児の認知特性。御自身が聴覚障害であることによる子どもの頃からの育ちにくさについて。具体的な体験談。9歳の壁と言われる抽象的な思考に移ることの難しさ。聞こえにくさの体験による聴覚に障害があることへの不安感や孤独感の理解。

3 考察

3つの研修ともに「とても良かった」「良かった」で94%～100%の結果が得られた。まず、外部人材の1人が聴覚障害者自身だったことから、体験談を交えた内容だったことが日々聴覚障害児を目の前にして指導している受講者にとってより効果的だったと考える。また、「難聴疑似体験」ではヘッドホーンをつけて授業を想定した聞こえない体験をしたことで、聴覚障害児がいかに神経を集中して授業を受けているか、それでもわからない部分が多くあること等が感じ取れる体験であったため、理解が深まったという感想が多く得られた。初めて聴覚障害幼児児童生徒とかかわる教員向けの内容になっていることでよりわかりやすい研修となり、好評を得たと思われる。経験者にとっても合理的配慮に関する最新情報を講義内容に入れる等、内容が豊富で得るものが多くあったようである。どれも具体的な内容が含まれていたことで高評価が得られたとも考えられる。以上から今後も体験や実技内容を含んだり具体的な指導法を取り入れたりする等、県内の関係者向けの基礎的な内容の研修が必要であることが確認された。

学校名	千葉盲学校
-----	-------

平成27年度

1 小・中学校等へのアンケート

活用した 外部人材	眼科医 1名	専門機関研究員 1名		調査実施学校数 11校			
	元大学教授 1名			調査実施人数 13名			
質問項目			大変そ う思う	まあま あそう 思う	あまり 思わな い	思わな い	無回答
外部人材の活用の効果があった			12	1			
外部人材の方の話は理解しやすかった			9	4			
外部人材の方のアドバイスを指導生かしてみようと思う			10	3			
機会があったら今後も外部人材を活用してみようと思う			10	3			
教職員にとっても外部人材の助言は指導上、有効である と思う			12	1			

2 小・中学校等の教職員が外部人材の助言で、有効だと思った具体的な内容

サポートの仕方でも子ども達の生活や生きやすさを感じることができると感心した。さまざまな機器を周りへの伝え方で自信をもって使うことができる。弱視児は見えるように振る舞ってしまう。教材の工夫。データベース紹介。触る絵本。桜井先生語録。多角的に教材を提示すること。立体コピー。弱視者の見えにくい色。視野の大きさの具体的なイメージ。近視、遠視、乱視の違い。重度重複児の視機能実態把握表。空間認識能力の形成について。どういう見え方をしているか。

3 考察

どの質問項目も「大変そう思う」が、大半だった結果が出ているのは、眼科医師、大学教授、専門機関研究員等の先生から、普段なかなか伺えない専門的な話の中に、実体験に基づいた教材の工夫、見え方とその見え方への対応、教室の環境作り等々、具体的な言葉やスライドで説明されていて、担当している児童生徒への支援方法がはっきり理解されたからだと思われた。また、今回は参加者の中に特別支援学校、特別支援学級担当もいらしたので、弱視の子どもの気持ちや自己理解についてもあり、なかなか言葉では、言い出さない気持ちに寄り添う大事さについても共感を得られたと考えられる。

学校名	船橋市立船橋特別支援学校
-----	--------------

平成27年度

1 小・中学校等へのアンケート

活用した外部人材	心理職 3名	調査実施学校数 9校			
	言語聴覚士 1名	調査実施人数 9名			
質問項目	大変そう思う	まあまあそう思う	あまり思わない	思わない	無回答
外部人材の活用の効果があった	8	1			
外部人材の方の話は理解しやすかった	9				
外部人材の方のアドバイスを指導生かしてみようと思う	9				
機会があったら今後も外部人材を活用してみようと思う	9				
教職員にとっても外部人材の助言は指導上、有効であると思う	9				

2 小・中学校等の教職員が外部人材の助言で、有効だと思った具体的な内容

心理職

- ・小さいがんばりを認めていく。
- ・他の児童の前ではめる。
- ・授業についてこれず不登校気味な児童に対して、学校で、社会的ルールを教えていくこと。また、苦手なことに対する意欲を高めるために、漢字の学習の前に先つなぎ等の課題に取り組み、自分で決めてやり遂げる体験をさせる。
- ・友達との関係作りが難しく、キレやすい児童に対して、気持ちを言葉に言い換えて行動修正をするとうい。
- ・児童が板書を書かないときには、目の動きも関係していることもある。
- ・わざと注目を浴びるような行動に対しては、担任は淡々と対応することが大切。
- ・パニックの多い児童に対して、パニックになったら、どうするかよりも、できるだけ原因を取り除くことを重視した方がよい。パニックを自分で回避できるように支援していくことが大事。
- ・担任は、周りの児童の指導も大切。支援児童の気持ちを代弁したり、周囲の児童のことも大事に思っていることを伝えたりした方がよい。
- ・具体的に発達検査の分析方法を聞いたり、現場でどのような支援が有効なのかを知ることができた。
- ・保護者支援の方向性が明確になった。

言語聴覚士

- ・専門的な知識をわかりやすく教えていただいた。
- ・半信半疑で取り組んでいた教師の支援が適切だと指示してもらえ、自信につながった。
- ・場面緘黙についての資料を用意してもらえ、自分自身の知識を深めるのに役立った。
- ・発音の改善に向けて、具体的な指導の道筋を教えてもらった。
- ・書字（平仮名、カタカナ、拗音）や数の学習について、段階を追ってとりこんでいくことの助言をもらった。

3 考察

- ・一人一人の児童のニーズに応じた原因究明とそのための具体的な支援方法の提案により、担任がすぐにも活用できる支援と感ずることができ、支援を必要としている児童に対する指導意欲が高まっていると思われる。そして、スモールステップで、実態に応じた課題の設定や支援方法を助言したことにより、児童の実態にあった方法で支援すればよいことがわかり、児童に対して、今、どんな行動や態度を求めたらよいか明確になってきていると思われる。
- ・専門的な知見からのアドバイスを受けたことで、担任自身の児童に対する見方が広がってきている。学級担任は、注目行動に等に対して、意図的な無視のような対処は、今まで実践していなかったこともあり、そのような方法が有効な支援につながるということがわかったのではないかと。
- ・パニックに対しては、対処療法よりも予防的な視点が必要だと気づいたのであろう。
- ・学校現場では、発達検査の数値的な結果は保護者を通じて、情報を持っていても、具体的な見立てや支援にどう結びつけられよいかを知りたかったと考えられる。
- ・行動面で目立つ児童に注目がいきやすく、対人面での支援が担任としての重点課題として多く見受けられるのではないかと。
- ・生徒の行動の背景とともに、母親の予想される心理状況の助言もあり、目の前の子供だけではなく、母との関わり方まで、考えるきっかけとなっている。
- ・言語聴覚士からは、具体的な指導の助言があるため、担任がすぐに実践に移せている。子供の改善につながるまでは、継続支援の必要性も感じている。

学校名	市川市立須和田の丘支援学校
-----	---------------

平成27年度

1 小・中学校等へのアンケート

活用した外部人材	心理職 4 名					調査実施学校数 3 校
						調査実施人数 71 名
質問項目	大変そう思う	まあまあそう思う	あまり思わない	思わない	無回答	
外部人材の活用の効果があった	41	29	1	0	0	
外部人材の方の話は理解しやすかった	47	4	0	0	0	
外部人材の方のアドバイスを指導生かしてみようと思う	50	21	0	0	0	
機会があったら今後も外部人材を活用してみようと思う	49	22	0	0	0	
教職員にとっても外部人材の助言は指導上、有効であると思う	54	11	0	0	0	

2 小・中学校等の教職員が外部人材の助言で、有効だと思った具体的な内容

<ul style="list-style-type: none"> ・新しい視点からのお話があり、そういう見方もあるのかと考えさせられた。(例) かがみ文字、字形がととのわないのは、ただ不器用な場合と空間認知力の問題の場合もある。 ・専門的な話が聞けること、教員とは違う目線の話が聞けることが良かった。 ・何をやらせたいのかを明確にさせる。(計算をさせれば、問題をコピーしてわたすなど、臨機応変に対応する) ・授業や普段の生活の中で当たり前暗黙のルールも、しっかりと確認する必要があるということ。(わかっているだろうは通用しない) ・<学習に遅れがある子への手立てについて>よいこと、やり続けてほしいことに対してほめること。指示は短く、分かりやすく伝えること、1つずつ確認して進めること。(他、読み書きの支援についても数多くの例をあげていただきました。) 観察カード、作文の書き方、音読の仕方、文字を整えるに…等。 ・ルールの明確化や、掲示、発問の工夫など、ユニバーサルデザインを意識した授業作りの手立てを考えていくことの大切さを感じた。
--

3 考察

<ul style="list-style-type: none"> ・「外部人材の活用の効果があった」と98%以上の先生が感じているのは、教員とは違う立場(心理職)からのアドバイスを聞いたこと、また若年層の教員が多くなってきているからだと思われる。 ・「外部人材の方のアドバイスを指導に生かしてみようと思う」と全員の先生が感じているのは、外部人材の助言で有効だと思った内容に「何をやらせたいのかを明確にさせる。(計算をさせれば、問題をコピーしてわたすなど、臨機応変に対応する)」と書かれているように、具体的な内容のアドバイスがあったからだと考えられる。また、「ルールの明確化や、掲示、発問の工夫など、ユニバーサルデザインを意識した授業作りの手立てを考えていくことの大切さを感じた」とあるように、ユニバーサルデザインというニーズに合った話をしたからだと考えられる。
--